

# 空は青々

校長室だより

令和6年10月11日

NO. 20

校長 高橋 理香

## 第1学期を終えて

10月11日、1学期を締めくくる終業式が行われました。各学年の代表が発表した1学期の反省は、どの内容も大変立派で、聞いている生徒たちの態度も大変すばらしく、1学期の成長を感じることができました。1学期の間、保護者や地域の皆様に支えられ、温かく見守られながら、子どもたちは確実に成長しております。これまでのご支援やご協力に感謝いたします。ありがとうございました。今後も、「地域を愛し、地域に愛される学校」を目指し、教職員共々ががんばっていく所存です。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

終業式では、次のことを話しました。

本日、第1学期が終わります。みなさんと一緒に、春、夏、秋と、3つの季節を駆け抜けてきました。学校行事や普段の生活の中で、岩中生一人一人が No Challenge, No Chance! の気持ちで光り輝いた学期でした。中には、順番や勝ち負けのある行事もあり、うれしい思いだけではなく、悔しい思いをした人もいたかと思えます。しかし、結果だけではなく、一生懸命に努力することの大切さ、精一杯がんばったからこそその達成感を味わうこともできた学期でした。

私は、始業式や全校集会で「夢や目標をもってほしい、その夢を追いかけてほしい」と話しました。また「友だちからも地域からも応援される人になってほしい」とも話しました。みなさんにとって、1学期はどうでしたか。夢や目標は見つかりましたか。周りから応援される人でしたか。

私は、岩中生が大好きです。全員が大切な1人だからこそ、みなさんのことを地域の方々や周りの人にほめてもらえると、私までうれしくなります。みなさん一人一人には、よいところがたくさんあります。自分の夢に近づくためには何をすることが大事なのかを考えて、みなさんのもっている、よいところをさらに伸ばしてほしいと思っています。

今日は、最近のうれしい出来事、岩中生のボランティア活動について紹介します。先週の土曜日に行われた、城山公園の蒸気機関車修復作業、同じ日に道の駅で行われた、「学ボラ」による赤い羽根の募金活動、そして、今週の火曜日から木曜日の朝に行われた、岩出山小学校バザーへの協力を呼びかけるボランティア活動。この3つのボランティア活動に、それぞれの学年から参加した岩中生が、地域のために自分たちで考えて行動を起こしてくれたおかげで、一緒に参加した地域の方々から「この子どもたちは岩出山の宝です。将来が楽しみです。」という声を聞くことができました。私も、地域のために一歩を踏み出している岩中生のパワーに感動しました。ボランティア活動に参加したみなさん、ありがとうございます。みなさんは、確実に地域の方々から応援される人になっています。人生はやってみないと分からないことがたくさんあります。私は、「人生とはジグソーパズルのようなものだ。」と思っています。最終形は完成するまで分からないけれど、すべてのピースが欠かすことのできない大事なものです。完成させるためには、長いこと時間はかかるけれども、一つ一つを確実にあてはめていく必要があります。人生も同じで、今やるべきことをしっかりと行っていれば、きっと自分を認めてくれる人があらわれるし、自分の夢に近づくことになると思います。そう考えていくと、なぜ、大谷選手はゴミ拾いをするのか、もっと言えば、なぜ私たちは勉強をするのか、その理由も見えてくると思います。こんなことを、秋休みという節目に、少しでも考えてもらえたらいいなと思い、話をしました。



